

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4073400295		
法人名	有限会社 笑苑		
事業所名	グループホーム 笑苑		
所在地	〒818-0122 福岡県太宰府市高雄一丁目3664番地258 Tel 092-918-0808		
自己評価作成日	令和02年07月05日	評価結果確定日	令和02年10月02日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

笑苑理念「住み慣れたわが街で、人生の最終章を自分らしく、心ゆたかに生きていただくお手伝いを致します。」に基づき、利用者様一人ひとりの個性を大切に、家庭的な雰囲気の中で安心、安定した生活を提供し、楽しい思い出作りのお手伝いをしながら、常に笑顔の絶えないグループホーム笑苑を目指しています。また、ボランティアの皆様をはじめ、地域の皆様との交流も怠らず積極的に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「笑苑」は、「住み慣れたわが町で、人生の最終章を自分らしく、心ゆたかに生きていただくお手伝いを致します」を理念に掲げて平成13年に開設し、平成29年4月に別館を増設した2ユニットのグループホームである。閑静な住宅街の中に位置し、防犯パトロールや清掃活動、資源ごみの回収等に地域の方と共に取り組んで交流している。また、認知症サポーター養成講座や声掛け見守り模擬訓練を継続して行う事で認知症の啓発に繋げている。看護師である代表、ホーム看護師、協力医療機関、訪問看護師との連携で安心の医療体制が整い、多くの看取りを行っている。調理員が畑で採れた野菜や旬の食材を使って作る美味しい料理を提供し、利用者に大変喜ばれている。代表の人柄を慕う職員が集まり、家族と地域、行政と共に、利用者の気持ちに思いを馳せながら、笑顔の絶えない介護サービスにチームで取り組んでいる、グループホーム「笑苑」である。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和02年09月08日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング時(夜勤者からの引継ぎ時)、職員は事業所理念を唱和し、利用者様が住み慣れた場所での人生の最終章を迎えて頂けることを目指している。	ホーム理念と職員心得「笑苑のめざすもの」を、毎日の朝礼時に唱和し、意識付けを行っている。職員は、利用者が住み慣れた地域の中で自分らしく心豊かに生きられるよう、笑顔の絶えない利用者本位の介護サービスに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防犯パトロール、クリーンデイ、資源回収に参加、また施設での餅つきには地域住民の方々にご参加を頂き、交流をしている。	防犯パトロールや清掃活動、資源ごみの回収に積極的に参加し、地域の一員として交流に努めている。また、地域参加型の声掛けや見守り模擬訓練を公民館単位で実施し、認知症の啓発に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	声かけによる徘徊模擬訓練を行い、認知症の方々への理解、支援方法を、地域住民の皆様を紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的(2ヶ月毎)に開催、事業報告、利用者様の状況について意見交換を行い、身体拘束適正化委員会も行っているが、令和2年度は、コロナウイルス感染防止のため運営推進会議の開催を自粛している。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、家族、地域住民代表、地域包括支援センター、行政の参加を得ている。利用者状況、活動報告、ヒヤリハット・事故報告を行い、参加委員からは、質問や意見、情報提供を受け、それらをサービスの向上に活かしている。新型コロナウイルス感染防止のため、3月から開催を自粛し、書面での報告を行っている。	新型コロナが収束後、運営推進会議の参加委員の増員に向けて、どうしたら人が来てくれるのかを考え、周囲の人を巻き込んで、人の眼を増やす試みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターの職員にも出席して頂き、情報交換により普及活動に協力させていただいている。今後は、新設の地域包括サブセンターとの交流も実施していく	地域や行政と協働して、声掛け見守り模擬訓練や認知症サポーター養成講座を実施したり、グループホーム協議会の研修に保険者として参加してもらおう等、事業所の実情を伝え、相談に乗ってもらう機会を設けている。運営推進会議にも参加してもらい、意見、情報交換を行い、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を通じて身体拘束とは何かを理解し身体拘束“0”を目指したケアを実践している。	運営推進会議の中で時間枠をとって、身体拘束適正化委員会を実施し、その内容を回覧したり、カンファレンスの中で話し合う等して全職員にフィードバックしている。具体的な行為の一つ一つを検証し、言葉の出せない人の気持ちに思いを馳せながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に基づき、身体拘束と併せて虐待による人権侵害にならない支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が制度の仕組みを理解し、利用者様・ご家族様及び身寄りのない利用者様からの問い合わせ、相談があった時は、関係機関が紹介できるように努めている	代表が市民後見人の講師として活動しているので、折に触れ権利擁護の制度について学ぶ機会を設けている。また、制度を活用している利用者、家族との関わりを通して、制度の概要を理解している。制度に関する資料を用意し、必要時には制度が活用出来るよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等の際は、利用者様、ご家族様、施設長、及び説明のできる職員が同席し、不安、要望、疑問点に対して、納得頂けるまで説明するように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、利用者様の利用状況報告書を作成し、利用者様の日常生活状況をお知らせしている。体調変化、連絡事項等があればご家族様と連絡を密にするように努めている	毎月の利用料の支払い時、面会や運営推進会議、年1回の家族会等の機会に家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望を聴き取り、ホーム運営に反映させている。また、毎月家族に送付する利用状況報告書と3ヶ月毎に発行する広報誌「えがお」で、利用者の状況を伝えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のカンファレンスを開催し、利用者様の支援に関する意見交換と併せて、業務改善等、職員の意見交換の時間を設けている	カンファレンスを毎月2回開催し、皆が良かれと思う事を口にする事から始め、活発に意見交換を行っている。議事録は回覧し、欠席者も会議の内容を共有できるよう工夫している。出された案件は速やかに反映される風通しの良い職場環境である。代表は様々な記録物に毎回コメントを載せて職員を労い励ましている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「資格は持っていても邪魔にはならない、重くない。」との代表者の言葉。資格取得者には手当支給して頂く心配りがある。職員一人ひとりの特技が生かされ、働きやすい職場環境に取り組んでいる		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集時は、資格よりも人柄、介護に関する考えを優先し、常勤、非常勤に関わらず研修会に参加できる機会を設け、働きやすい環境作りに努めている	管理者は、職員の特技や能力を発揮できるよう職員配置を行い、職員一人ひとりの諸事情にも配慮し、職員が互いに支え合いながら長く勤められる体制を整えている。外部研修受講や資格取得を奨励し、職員が向上心や自己肯定感を持って働けるよう支援している。年度末に、個別面談にてやり辛さや上手いっていないところはどこか等を聴き取り、働きやすい環境作りに取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者様の人権を尊重し、全職員が連携して身体拘束、虐待のない住み慣れた環境作りに取り組んでいる。	カンファレンスの中で、利用者の人権を尊重した介護サービスが提供出来ているかを確認し、利用者が自分らしく心豊かに暮らせるよう支援に取り組んでいる。人権に関する外部研修を受講した職員による伝達研修を行い、職員一人ひとりが常日頃から人権を意識した介護サービスに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤、非常勤にかかわらず、実践者研修、リーダー研修、喀痰吸引研修等をはじめ、内部・外部研修の受講機会を設け、利用者様に対する支援の質の向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会、社会福祉協議会、行政・福祉ネットワーク等を通じて研修会に参加し、情報交換により利用者様に対する支援の質を向上する取り組みを行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と面接の際、今までの経緯やご要望等、話を十分に伺うようにしており、不安を取り除いて安心して生活して頂けるような関係づくりに努めている。また、希望があれば体験入居も取り入れている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの経緯やご家族の希望を把握し、いつでも相談して頂けるような関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いをする上で必要な支援が何かを見極め、他のサービス機関との連携を考慮した対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	開設当初より、利用者様は家族という考えで、日々の生活の中で信頼関係を深めるように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には施設の行事や家族会に参加して頂き、交流の機会を多く持って頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族は勿論、親戚や友人、知人が来所された際は自由に面会して頂いている。また、外出や外泊も同様であり、馴染みの関係が継続できるように支援しているが、現在は、コロナウイルス感染防止のため、面会をご遠慮して頂いている。	現在は、新型コロナ感染防止として面会を控えてもらっている。入居者前からの馴染みのかかりつけ医の継続や、その方の住んでいた地域の敬老会の案内を受け参加する等、利用者が長年築いてきた人間関係や地域社会との関わりがホーム入居で途切れないように支援している。家族の協力を得て、自宅への一時帰宅や外出等行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士でお話しが出来る居場所をつくり、お互いが不快にならないよう、職員が介入しながら関係が保てるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グリーンケアの一環として、職員全員がお通夜に参列させて頂き、寄せ書き等をお渡ししたその後も、ご家族とは数年来のお付き合いをさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言葉や表情、仕草から、思いを汲み取るように努めており、その情報を職員会議で共有し議論することで、希望や意向の実現に向けて取り組んでいる。	「何かしたいですか？何が食べたいですか？」といった漠然とした問いには答えが返ってこないことから、本人の思いを掘り起こす努力をしている。まだできることをどう提示できるのか、個別のニーズに合わせた支援に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族や、今までのサービス提供者から、これまでの生活歴や暮らし方等伺い、情報を職員間で共有し、本人が望む暮らし方が継続できるような支援に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の日々の変化や発見を、申し送りやケア会議及び、職員間の連絡ノートにて、情報を交換していくことで現状把握に努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月毎に介護計画を見直し、ケア会議で協議している。また、計画の見直しが必要になった際は、主治医やご家族とそうだしながら、現状に即した介護計画になるよう努めている。	利用者や家族の意見や要望を聴き取り、主治医や看護師の意見を聞いて、月2回行うカンファレンスの中で検討し、職員の意見を反映した介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の重度化や状態変化に合わせて、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録は、利用者様の状況変化を早期できる様に分かりやすく簡潔に記録し、毎朝のミーティング時、カンファレンスの場で情報を共有している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族様との関わりの中で、その時々々の状況に応じた臨機応変な支援が速やかに行えるように努めている。また併設している他施設と連携し、適切なサービスが提供できる体制をとっている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、ボランティアの皆様との交流を通じて社会参加ができ、豊かな生活に繋がるように支援している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族様の意向を尊重し、かかりつけ医の訪問診療、受診を支援しているが、状況に応じて病院の紹介や、専門医での適切な検査、治療が受けられるように支援をしている。	契約時に、利用者や家族の希望を優先して主治医を決定し、馴染みのかかりつけ医の受診を家族と協力して行っている。代表が看護師であるため、利用者や家族にとって大きな安心であり、ホーム内看護師、必要時には訪問看護師とも連携しながら、24時間安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長、看護師および介護福祉士とで健康管理に努めている。また主治医との連携を密にしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院時、入院医療機関に情報を提供し、入院中には面会に赴き安心して治療が受けられるように努め、また退院後の生活が安心して再開できるように、医療機関の地域連携室との情報交換を行っている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方針については、入居契約時に説明。利用者様の状態に合わせてご家族様に状況報告とご要望をお聞きしながら事業所の理念や対応についてご理解を頂き、利用者様、ご家族様、主治医との話し合いにより職員全員で方針を共有しながら、最期まで自分らしく過ごして頂けるように支援している。	契約時に、利用者や家族の要望を聴き取り、ホームの理念や重度化・終末期に向けた方針について説明し、理解を得ている。「人生の最終章を、自分らしく、心豊かに生きていただく」ことを理念に掲げ、職員は、利用者の終末期を全力で支援し、これまで多くの看取りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを基本に、利用者様の急変時、事故発生時の対応について、カンファレンスの場での勉強会をはじめ、施設長より職員のレベルに合わせた個別指導等を機会あるごとに実施し、実践に生かせるように取り組んでいる		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力のもと火災避難訓練を行い、近隣住民へも声掛けを行っている。風水害に対してはハザードマップで危険区域を確認しマニュアルを作成、自由に閲覧することができる様になっている。施設内には、避難場所も掲示し、職員に意識付けをしている。	非常災害を想定した避難訓練を年2回(6月・11月)実施し、1回は消防署の参加がある。ユニット毎の避難経路、一時避難場所、併設事業所の職員との協力体制も確認している。また、発電機と米、塩等を大量に備蓄し、災害時には地域の方のためにもホームを開放できるよう準備している。	夜勤者を中心に夜間想定避難訓練を繰り返し実施し、夜勤者が自信を持って夜勤出来る体制、また、地域との具体的な協力体制の構築を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが利用者様の人格を尊重し、ケアや言葉使いに留意し、思いに寄り添ってプライバシーや誇りを損なう事のないように接している	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、それぞれの人格を尊重する関わりに活かしている。また、言葉遣いや対応など、日常の介護の中で、利用者の誇りや羞恥心の配慮ができていけるかを話し合い、利用者が安心してその人らしく暮らせるホームを目指している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分らしく過ごして頂けるように利用者様の声を傾聴し、自分の思い、希望を伝えたり自己決定ができる様に支援を行っている。意思表示が困難な利用者様には、自分の意志表示が引き出せるようなさりげない声掛けや、ご家族様の情報を基に支援を行っている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の業務の流れはあるが、無理強いくことなく利用者様の要求、希望を優先し、安心して過ごして頂けるように心がけている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好み、利用者様らしさを尊重し、着替え時や外出時には、一緒に衣類を選んだり準備するように心がけている。毎朝起床後の整容にも心がけている。また、訪問理美容師による髪の毛のカットもある。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理員が利用者様一人ひとりの好みを把握し、好みや要望を取り入れた献立を考えている。食材には施設の畑で採りたての野菜、精米したてのお米を使用し、誕生日には、ご本人様の希望の食事を提供する等、バラエティーに富んだ食事を提供している。	玄米をその都度精米し、ホームの畑で採れた野菜を使い、利用者の好みを聞いて、1階厨房の調理職員が作る美味しい料理を提供している。誕生日の料理、おやつ作り、外食等、「食」を利用者が楽しめるように取り組んでいる。また、利用者の力に応じて盛り付けや食器拭き等を一緒に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量を把握し、また好みに応じて紅茶、コーヒー等を提供。食欲低下時にはご本人様の食べたいもの、口当たりの良いものを職員が相談しながら提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が口腔ケアの声かけ、口腔ケア状況の見守りを行い、必要により介助を行っている。また定期的に訪問歯科医師、歯科衛生士による口腔ケアの指導、口腔内の管理を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄パターンに合わせて、早めの声掛けトイレ誘導を行い、トイレでの排泄、自立に向けた支援を行っている	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合わせた声掛けや誘導、リハビリパンツやパットの使用方法等の検討を行っている。夜間帯も歩ける方には声掛けして歩いてもらい、安易にポータブルトイレは置いていない。また、トイレでの立位が保てるように、生活リハビリの中で下肢筋力の強化に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、マッサージ、運動状況、食事摂取量、水分摂取量を常に把握し、排便の正常性に努めている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の個浴を提供。利用者様の体調、希望に合わせて職員2名により、声掛けをしながら安心して快適に入浴して頂けるように努めている。体調不良等で入浴できない場合は、全身清拭により身体状況の把握にも努めている	入浴は週3回を基本とし、重度化された利用者が多い中、職員の頑張りにより、出来るだけ浴槽に浸かって貰っている。入浴を拒否する方には、時間を変更したり、声掛けを工夫する等して、無理強いのない支援に取り組んでいる。入浴しない時は、陰部洗浄と清拭を必ず行い、清潔保持に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣、心身状況に合わせて日中の生活リズムを作り、また使い慣れた生活用品を身近に置くことで、安心して眠れるように支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬について、薬文献で薬の種類、作用、副作用を全職員が認識。変化があれば主治医へ報告、薬剤師と連携をとりながら、作用、副作用について、全職員が理解している。また、利用者様の病状により服薬の変更が生じた場合は、全職員へ周知を行っている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の得意分野を生かす支援に取り組み、施設の温室で蘭はじめとする色んな植物の観賞や、初詣、お花見、地域の夏祭りへ参加することにより、気分転換を図れる支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事、地域のイベントには積極的に参加、また近辺への散歩、ドライブ、買い物支援を行い、天候によっては、外気浴で気分転換の支援を行っている	新型コロナウイルス感染防止対策のため、外出レクリエーションは自粛中であるが、敷地内の散歩や日光浴等、外気に触れる機会を多く取り入れ、利用者の気分転換を図っている。また、病院受診の帰り道に買い物やドライブ等、利用者が外出を楽しめるよう工夫している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設事務所でお金を預かり管理しているが、ご希望の利用者様には少額のお金をお持ち頂き、買い物同行支援も行っている。事務所で預かりの金額は、利用者様の希望があれば渡せるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて、ご家族様、お知り合いへの電話、手紙により近況報告ができるように支援を行っている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごして頂けるように常に清潔、整理整頓に努め、施設長栽培の蘭をはじめ、花や飾りつけにより季節感が感じることができるよう配慮している、	敷地内には畑、室内には観葉植物や蘭、カトレアの鉢が並び、季節感のある、家庭的で温かな雰囲気の共用空間である。また、職員一人ひとりが、小まめな清掃や換気を行い、利用者が気持ちよく過ごせるよう心掛けている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は、常に清潔、整理整頓に努め、利用者様同士が家庭的な雰囲気作りのなかで、安心して過ごして頂けるように工夫している、		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談、協力を頂き馴染みのある生活用品を準備して頂き、個性のある居室作りに取り組み、季節や利用者様、ご家族様の希望による居室内の模様替えも行い、居心地よく安心して過ごせるように工夫している	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が使い慣れた家具やテレビ、身の回りの物、仏壇や家族の写真等、大切な物を、家族の協力を得て持ち込んで貰い、その方らしい居室となるよう工夫している。温度、湿度の調整、換気にも気をつけ、利用者が居心地良く過ごせる居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の廊下、トイレ、浴室、階段には手すりを設置、バリアフリーにより、身体機能が安全に活かせるように設備環境を整備している。また行動を制止することなく、見守り、さりげない声掛け誘導により、自立した生活が送れるように努めている		